

## 第6学年国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 5校時  
児 童 6年生11名(男子7名, 女子4名)  
指 導 者 桂 康 博

- 1 単元名 作品の世界を深く味わおう  
教材名 「やまなし」 宮沢 賢治 作  
〈資料〉 イーハトーヴの夢 (光村図書 6年)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

これまで児童は、「カレーライス」の学習で、自分の体験と重ねながら中心人物の心情を考え、感想文にまとめる学習活動を行った。この学習を通し、一人称視点で書かれた文章のもつ特徴や効果が分かり、作品中に出てくる重要な意味をもつ語句や文章に着目したり、自分の体験と重ねて感想をまとめたりすることができた。また、作品には作者の思いが隠されているということや、それを読み解いていくことのおもしろさについて、興味をもつようになってきている。

しかし、作品中の文章表現や中心人物の変容に込められた、作者の意図や思いを深く考えたり、それに対する自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童もいる。

以上の実態から、現段階での本学級の児童に育てたい力は、作品に込められた作者の思いをとらえ、それに対する自分の考えをまとめる力であると考ええる。

#### (2) 単元の指導事項

児童の実態に即し、本単元では、第5・6学年「C 読むこと」における以下の指導事項を、育てたい言語能力としてより詳細にとらえ、単元を通して具体的に指導していく。

#### ◆育てたい言語能力◆

##### 読むこと

- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 【読(1)イ】
  - ・目的に照らし、比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえることができる。
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 【読(1)エ】
  - ・優れた叙述に気づき、独特の表現と作品全体の雰囲気との関係を考えることができる。
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 【読(1)オ】
  - ・作品の意味や主題について考えることができる。

#### (3) 教材について

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、賢治の伝記「イーハトーヴの夢」によって構成されている。

「やまなし」は、宮沢賢治の独特な表現が駆使された作品である。「二枚の青い幻灯」によって対比された「小さな谷川の底」の世界は、現実社会と賢治の理想社会を表し、「かわせみ」と「やまなし」はその象徴的な存在として「かこの親子」の上に突然現れる。「五月」の世界は、「春の陽光の明るさの裏にある厳しい生存競争と死の恐怖」であり、「十二月」の世界は、「冬の月光の暗さや冷たさの裏にある生への希望、安らぎ、温かさ」を表している。この二つの世界は、比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語などの表現によっても暗示的に対比され、表面的な世界と内実的な世界との表裏一体性や、矛盾を含む自己同一性といった賢治の深い思想が秘められている。

〈資料〉「イーハトーヴの夢」は、農学校の教師や作家、農業改良の普及をしながら理想郷(イーハトーヴ)を追い求め続けた宮沢賢治の生涯を描いた評伝である。賢治が生きた時代は、外国との戦争が相次ぎ、産業の発展を第一とする風潮が盛り上がりを見せる中、その一方で世界的な大不況によるコメ不足や天災・大凶作に多くの農民たちが苦しんだ時代と重なる。賢治は貧しさにあえぐ人々に希望を与えようと切実に生き、人が自分の欲のためだけに生きる現実社会の悲しさや虚しさを訴えたのである。

賢治作品はその独特な作品世界観ゆえに、児童にとってはやや難解なものも多い。高学年児童の図書室利用の状況を見ても、賢治作品があまり読まれていない。そのような実態にあつて、本単元は、優れた表現や作品世界そのものを味わうことのよさ、そして、伝記を読み、作者の考え方や生き方と重ねて作品の意味を改めて考えてみるという「読むことの面白さ」を十分に味わわせてくれるものとなっている。またさらに、児童と同じ岩手出身である作者の考え方や生き方に触れることで、作品そのものの魅力のみならず、作者自身への感興や尊敬の念から、読書への関心の高まりや自己の生き方を見つめるきっかけともなり得ることが期待できる、価値の高い教材であると考えられる。

#### (4) 単元の指導にあたって

本単元の最終的なねらいは、作品の世界を深く味わうことである。味わうとは、優れた表現方法や作品世界そのものに浸るということであり、作品に込められた作者の思いや主題は何かを考えることである。そこで、児童の実態と育てたい言語能力とを考慮し、以下のような単元の指導を計画した。

< 単元を通じた言語活動 >

賢治作品の意味を考え、感想文を書く。

#### 第1次(1時間)……単元のためを知り、学習の見通しをもつ。

第1次では、児童の学習意欲や読書意欲を高めるために、図書室の絵本や「雨ニモマケズ」の詩などの作品を紹介する。次に、「やまなし」を範読し、初発の感想交流につなげる。そこで、「やまなし」という題名の意味は何か、作品に込められた作者の思いは何かという学習課題を設定し、その解決のために「二枚の幻灯の対比」や「伝記を読んで作者の考え方や生き方と重ねる」といった方法で読み取っていくという目的をもたせる。

同時に、賢治作品の並行読書に取り組みさせるようにし、第3次では賢治の他作品と比べたり重ねたりして、感想文を書くという単元のゴールを示す。

賢治作品の並行読書

#### 第2次(5時間)……構成や表現の特色を味わったり、作者の人生と重ねたりして、作品を読み味わう。

第2次では、まず、優れた叙述を味わわせながら「五月」と「十二月」の世界を読み取らせる。それから、「五月」と「十二月」を観点ごとに類比・対比させる。ここで一度、作品に込められた作者の思いを考えさせ、「小さな生命への優しさ」「自然の美しさ」「自然の厳しさ」といった、作品そのものから感じられる主題について自由に交流させたい。

次に、賢治の伝記から、「人間が、みな人間らしい生き方ができる社会」「人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界」といった考え方(理想)や、「人々のため、社会全体の幸福のために」という賢治の生き方(行動)を読み取らせる。そして、改めて賢治の考え方や生き方と関連付けながら「やまなし」を読み返し、なぜ「やまなし」という題名にしたのか、作品に込められた作者の思いは何かを、考えさせるようにしたい。

#### 第3次(2時間)……他の賢治作品を読み、感想文を書く。

第3次では、各自、並行読書してきた賢治の他の作品から、賢治の考え方や生き方が強く表されていると感じた作品を取り上げ、1000～1200字の感想文を書く活動を行う。その際、作品と賢治を重ねたり、あるいは「やまなし」と重ねたりして、作品に込められた賢治の思いを考えさせるようにする。そして、その賢治の理想について自分はどう思うのか、現代に賢治の理想は受け入れられるのかについても、一人一人に考えさせたい。

3 単元目標及び指導計画・評価規準(読む8時間)

単 元 の 目 標	<p><b>国語への関心・意欲・態度</b></p> <p>○物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知ろうとしている。</p> <p><b>読むこと</b></p> <p>○二つの場面を比べたり、作者の考え方や生き方と重ねたりして読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえることができる。 【読(1)イ】</p> <p>○場面の様子をとりえ、作品の中で使われている優れた表現を味わうことができる。 【読(1)エ】</p> <p>○本を読んで考えたことを交流し合い、自分の考えを深めることができる。 【読(1)オ】</p> <p><b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b></p> <p>○表現の工夫や効果に気付くことができる。 【伝国(1)イ(カ)】</p>		
	次	時	主な学習活動
第1次 みとおす	1	<p>○単元名、題名について考える。</p> <p>○初発の感想を交流する。</p> <p>○学習課題に沿って学習計画を立てる。</p>	<p>【関】作者の思いについて考え、賢治作品を進んで読み広げようとしている。(発言・ノート)</p>
	2	<p>○「五月」の谷川の世界を短文で書きまとめる。</p> <p>○「かわせみ」と「かへの親子」の関係について話し合う。</p>	<p>【読エ】「かわせみ」や「かへの親子」の様子に着目して「五月」の世界を想像しながら読んでいる。(発言・ノート)</p> <p>【伝国(1)イ(カ)】優れた表現の工夫や効果に気づいている。(発言・ノート)</p>
第2次 ふかめる	3	<p>○「十二月」の谷川の世界を短文で書きまとめる。</p> <p>○「やまなし」と「かへの親子」の関係について話し合う。</p>	<p>【読エ】「やまなし」や「かへの親子」の様子に着目して「十二月」の世界を想像しながら読んでいる。(発言・ノート)</p> <p>【伝国(1)イ(カ)】優れた表現の工夫や効果に気づいている。(発言・ノート)</p>
	4	<p>○「五月」と「十二月」を類比・対比する。</p> <p>○「かわせみ」と「やまなし」を類比・対比する。</p>	<p>【読イ】観点に沿って対比させている。(発言・ノート)</p>
	5	<p>○〈資料〉「イーハトーヴの夢」を読む。</p> <p>○作者の考え方や生き方について話し合う。</p>	<p>【読オ】賢治の考え方や生き方についての感想をもっている。(発言・ノート)</p>
	6 本時	<p>○賢治の考え方や生き方と作品を重ね、作品に込められた作者の思いについて話し合う。</p>	<p>【読イ】賢治の考え方や生き方と関連付けて「やまなし」に込められた作者の思いを考えている。(発言・ノート)</p>
第3次 ひろげる	7	<p>○並行読書してきた賢治作品の中から賢治の人生と重なっている作品を選び、感想文を書く。</p>	<p>【関】物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知ろうとしている。(ノート、観察)</p> <p>【読イ】賢治の人生と作品を重ねて読んでいる。(感想文)</p>
	8	<p>○感想文の交流会を行う。</p> <p>○本単元の学び方を振り返る。</p>	<p>【読オ】互いの発表を聞きあい、感想をもっている。(発表・ノート)</p>

4 本時の指導(6/8時間)

(1) 目標

賢治の考え方や生き方と関連付けて、「やまなし」に込められた作者の思いを考えることができる。

(2) 指導の手立て

研究主題と関わり、本時では、考えを形成し表現できるようにするために、以下のような手立てを組む。

①「やまなし」と賢治の考え方・生き方とを重ね読みをさせる。

②「やまなし」に込められた賢治の思いを、自分の言葉で書きまとめさせる。

(3) 展開

段階	学習内容(番号)と主な発問・指示(○)	指導上の留意点 ◎【評価】(方法)
みとおす 3分	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>○ 今日の課題は何でしょう。</p> <p>2 解決の見通しを立てる。</p> <p>○ どんな読み方で解決していきますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     賢治の理想(考え方)や生き方(行動)と重ねながら、「やまなし」に込められた作者の願いについて考えよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画や前時までの学習内容を掲示し、適宜、振り返れるようにしておく。</li> <li>・課題をノートに書き、全員ではっきり声に出して読む。</li> <li>・重ねて読むという方法が、第三次での他作品の感想文を書くことにもつながることを児童に意識させる。</li> </ul>
ふかめる 37分	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1)「賢治の理想」と、重ねる。</p> <p>○賢治は、「五月」と「十二月」のどちらの世界が好きだと思いますか。 ( A 五月, B 十二月, C 両方 )</p> <p>○なぜそう思いましたか。</p> <p>○賢治の理想や生き方が強く表れているのはどちらですか。 ・「十二月」は、賢治の理想や夢に近い。イーハトーヴだから。</p> <p>(2)「賢治の生き方」と、重ねる。</p> <p>○賢治の生き方は、物語に登場する何の姿に似ていると思いますか。 ( A かわせみ, B やまなし, C かにの兄弟 )</p> <p>○自分の考えをノートに書きましょう。書いたペアから対話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者のために自分を捧げるところが似ている。</li> <li>・やまなしは賢治の生き方そのものである。つまり賢治自身だ。</li> <li>・だから題名も「やまなし」にしたのだと思う。</li> </ul> <p>(3)「やまなし」に込められた賢治の思いを考える。</p> <p>○この作品には賢治の理想と生き方が重ねられていた。では、賢治はいったいどんなことを伝えたくて、この「やまなし」という作品を書いたのでしょうか。「やまなし」に込められた賢治の願いを書きまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賢治は、「人のために生きよう。みんなでイーハトーヴをつくろう。」という願いを込めて、この「やまなし」を書いた。</li> <li>・賢治は、みんなに望ましい社会のあり方や、人としての生き方に気づいてほしかったと思う。</li> <li>・今読んでいる他の賢治作品からもそういう思いが伝わってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子も話し合いに参加できるような雰囲気を作る。 〔五月…競争や厳しさも大切だ。 両方…自然のありのままの姿だ。〕</li> <li>・どの考え方も認めつつも、賢治の理想を根拠にして考えさせていく。</li> <li>・自分の意見や根拠をしっかりと持たせてから対話に入らせる。 〔かわせみ…奪う存在 かにの兄弟…与える存在ではない〕</li> <li>・対話によって、やまなしと賢治の生き方との共通点を見つけ出し、結論に辿りつかせたい。</li> <li>・児童それぞれの感じたことを発表させながら、「書きまとめ」に入れる言葉のイメージをどの子ももてるようにする。</li> <li>・書きまとめの文型は示すが、それにとらわれ過ぎず、2段落目から自由に記述してもよいことを確認する。</li> </ul> <p>◎【読オ】 賢治の考え方や生き方と関連付けて、「やまなし」に込められた作者の思いを考えることができる。(ノート・発言)</p>
まとめる 5分	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1)学習をふり返る。</p> <p>○今回の学習をふり返ってどんなことが分かりましたか。</p> <p>(2)「学び方」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の考え方や生き方と重ねて読むと作品の意味がより深くわかる。</li> <li>・作品の題名には作者の思いが込められている。</li> </ul> <p>(3)次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語をどのように読めばいいか、今日の学習から分かったことを確認する。</li> <li>・次時は、並行読書してきた他の賢治作品と賢治の人生を重ねてみることを告げる。</li> </ul>

(4) 評価

評価 (評価方法)	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
賢治の考え方や生き方と関連付けて、「やまなし」に込められた作者の思いを考察することができる。(ノート、発言)	賢治の考え方(理想)と生き方(行動)の両方を作品と関連付けて、「やまなし」に込められた作者の思いを書きまとめている。  ＜期待される児童の例＞ 賢治は、「やまなし」のような人を幸せにする生き方をしよう、「十二月」のような希望や夢のある世界、人間が人間らしく生きる社会にしようという願いを込めて、この「やまなし」を書いた。	賢治の考え方(理想)と生き方(行動)のどちらかを作品と関連付けて、「やまなし」に込められた作者の思いを書きまとめている。  ＜期待される児童の例＞ 賢治は、「十二月」のような希望や夢のある世界、人間が人間らしく生きる社会にしようという願いを込めて、この「やまなし」を書いた。 賢治は、「やまなし」のような人を幸せにする生き方をしようという願いを込めて、この「やまなし」を書いた。	賢治の考え方(理想)や生き方(行動)と、「やまなし」との関連を板書や掲示で確認させ、その言葉を引用して「やまなし」に込められた作者の思いを想像させる。  「平和、希望、安心、待つ楽しみがある社会、他を幸せにする存在、人のために生きる生き方」などの言葉を引用させ、賢治がどんな気持ちでこの物語を書いたかを想像させる。

(5) 板書計画

